

今から1300年あまり前、牛乳は、滋養のつく貴重な栄養食品として、中国や朝鮮半島から仏教と共にわが国に伝えられた。海を渡ってきた大陸の人々によって、牛を飼うことやその乳を利用する文化が日本にもたらされたのである。映画は、牛乳が初めて日本にもたらされた頃の物語で、2人の少年の友情と、牛を飼う人々と農耕を営む人々との交流を描いた楽しいアニメーション作品である。



里長（さとおさ）の家に租税を納めに、村人たちが集まってきた。福児（ふくじ）の村からは壺に入れたものを、弓彦（ゆみひこ）の村からは米を運んできた。壺の中のものは、牛乳からつくられたチーズのようなものだった。牛乳は、朝鮮半島の人々によって7世紀半ばに初めて日本に伝えられたのだ。ある日、野うさぎを追っていた弓彦は、不思議な村を見つける。そこは、牛を飼う牧場のある福児の村だった。

ある晩、盗賊が弓彦の村を襲い、大事な米を奪っていった。同じ夜、福児の村でも大切な牛を盗まれてしまった。2つの村の人々は、すぐに賊を追いかけたが、相手は強く、命からがら村へ逃げ帰った。

しかし、福児と弓彦はあきらめず、別々に賊のあとを追った。賊に見つかり、危ないところを弓彦に助けられた福児。弓彦もまた、福児に助けられた。協力して奪われた牛や米を取り戻した福児と弓彦は、追ってくる賊たちを橋で待ち伏せ、撃退した。「お前、なかなかやるなあ」「お前もな」そして無事に村に帰りついた福児と弓彦。

この事件をきっかけに、異なった生活文化をもった2つの村のつきあいが始まり、お互いに助け合い仲良く暮らすようになった。

アニメーション
35ミリ
カラー／20分

■企画
雪印乳業株式会社

スタッフ

■製作
村山英世
■脚本
岡本忠成
東川洋子
■演出
馬場 健
■原画
古佐川吉重
江口麻吏介
■美術
青木 稔
■撮影
高橋明彦
■作曲
廣瀬量平
■編集
相沢尚子
■録音
甲藤 勇
■語り
草野大悟